

令和 8 年 9 月 1 0 日

第 3 回 定 例 会 議 案

(別冊 3)

厚 真 町 議 会

報告第 5 号

教育委員会の事務事業の点検・評価報告について

教育委員会から、教育委員会の事務事業の点検・評価の結果について、別紙のとおり報告があったので提出する。

令和 8 年 9 月 1 0 日提出

厚真町議会議長 渡 部 孝 樹

厚 社 教 号
令和 8 年 8 月 18 日

厚真町議会議長 渡 部 孝 樹 様

厚真町教育委員会
教育長 遠 藤 秀 明

教育委員会の事務事業の点検・評価報告について
このことについて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26
条に基づき別紙のとおり報告いたします。

(生涯学習課学校教育グループ・社会教育グループ)

令和 7 年度教育委員会の事務事業の 点検・評価報告書

厚真町教育委員会

目 次

議会への報告について	1
1 厚真町教育委員会外部評価委員会の会議の経過	2
2 点検評価について	3
3 意見書	4
4 事務事業点検評価結果	別冊

議会への報告について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果について議会に提出するとともに、広く公表することとされています。

厚真町教育委員会では、同法に規定する教育事務の点検評価を実施するに当たり、教育に関して学識経験を有する者等で構成する厚真町教育委員会外部評価委員会を設置しています。

厚真町教育委員会においては、第4次厚真町総合計画及び厚真町教育振興基本計画に掲げる施策のうち、学校教育グループ・学校給食センター所管の3事務事業と社会教育グループ所管の3事務事業についての内部評価を行いました。

7月8日及び7月22日の2日間の日程で、点検・評価シートによる外部評価委員会の審議を経て、意見をいただいたものであります。

つきましては、本町の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価の内容をとりまとめ、報告書として議会に提出いたします。

令和8年8月18日

厚真町教育委員会
教育長 遠 藤 秀 明

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 厚真町教育委員会外部評価委員会の会議の経過

第1回 厚真町教育委員会外部評価委員会

日 時：令和8年7月8日（水）

午後3時00分～午後4時50分

場 所：総合ケアセンターゆくり2階 介護学習室

委員出席者：委員4人

説明出席者：教育長、次長、生涯学習課長、生涯学習課文化交流担当
参事、生涯学習課社会教育グループ主幹（グループリーダー）

日 程：1 点検・評価
各事業（6事業）の説明と質疑

第2回 厚真町教育委員会外部評価委員会

日 時：令和8年7月22日（水）

午後4時30分～午後4時55分

場 所：総合ケアセンターゆくり2階 介護学習室

委員出席者：委員4人

説明出席者：教育長、次長、生涯学習課長、生涯学習課文化交流担当
参事、生涯学習課社会教育グループ主幹（グループリーダー）

日 程：1 点検・評価
各事業の点検・評価の確認、まとめ
2 意見・報告
まとめ

意見書提出

日 時：令和8年7月22日（水）

午後4時55分～午後5時00分

場 所：総合ケアセンターゆくり2階 介護学習室

委員出席者：委員4人

教育委員会出席：教育長、次長、生涯学習課長、生涯学習課文化交流
担当参事、生涯学習課社会教育グループ主幹（グループリーダー）

2 点検評価について

(1) 点検評価対象年度

令和7年度

(2) 点検評価の方法

点検・評価については、初めに「第4次厚真町総合計画」及び「厚真町教育振興基本計画」に示されている各種の教育施策並びに従来から継続している事務事業等を確認し、学校教育グループ・学校給食センター所管の3事務事業、社会教育グループ所管の3事務事業、あわせて6事務事業の「点検及び評価シート」を作成しました。

次に、教育委員会が妥当性、有効性、効率性の3つの項目の内部評価を行い、今後の方向性・課題・改善提案等の検討を行いました。

続いて、外部評価委員会が内部評価を終えた事務事業を、各担当者からの説明や質疑応答を経て再評価することで、評価の客観性及び公平性を確保することにいたしました。

3 意見書

外部評価委員会の意見

はじめに、学校教育グループ所管の事務事業について、英語指導助手配置事業では、英語とふれあう力など子ども達の能力は高いと評価します。

今後は、町の教育で得たものを活かせる方策等の模索のほか、この取組を町内外の方々に知ってもらい、町全体で実感できるよう周知・工夫を行っていただきたいと思います。

I C T教育推進事業については、子どもたちの今後において重要なことであり、現状で理解や活用等のレベルも高いと評価します。

ただし、保護者等に対しても周知方法や工夫を行い、理解を高めることも必要と思われるので、町として、一定のルールを設ける必要性など、他機関も含めて様々な情報を集めて方向性を見定めていただきたいと思います。

学校給食センター管理運営事業については、町の給食は、町内外からも評価が高いと判断します。地元食材の活用は収穫時期もあり、難しい面も理解できますが取組を進め、今後も質を落とさず安定運営に努めていただきたいと思います。

あつまの日の給食は、米が主役であることが最優先であることは理解していますが、新たなメニュー開発など、記憶に残る工夫・検討も継続して行っていただきたいと思います。

次に社会教育グループ所管の事務事業についてです。

社会教育委員費については、これまでの課題を踏まえて、今後は活動内容等を精査し充実させてほしいと考えます。また、職員による事業の説明だけにとどめず、委員にテーマを提供することにより、具体的な意見を出しやすく、より活発な社会教育委員の会を目指してほしいと考えます。

生涯学習振興事業については、人口減や職員の働き方改革など、時代に見合った事業の統合や効率の良い事業の継続、廃止を考える時に来ていると認識します。

新たに建設される文化交流施設を最大限に利用した事業の展開を進めて、参加者の増加に努めていただきたいと思います。

かしわ公園運動施設管理事業については、既存施設の一部廃止は慎重であるものの、人口減少に伴う利用頻度の低下は理解できます。現状のナイター設備の施設修繕経費やL E D化改修経費など高額な経費が発生する

ため、費用対効果の側面からナイター設備の撤去も判断しなければならないと考えます。防災拠点としてのナイター設備必置条件もないことから、撤去の方向性も理解できますが、様々な運用形態も含めて検討願いたいと思います。

なお、ナイター設備撤去の場合は利用者への事前の説明、理解をいただくことも大切であり、対応願います。

教育委員会には、この事務事業の点検・評価の内容を十分に精査し、教育行政の質的な向上に向けてさらなる工夫を講じられるとともに、厚真町教育振興基本計画の達成に向け最大限の努力をほらい、住民のニーズに的確に答えていかれることを期待します。

令和8年7月22日

厚真町教育委員会外部評価委員会

委員長	野澤政博
副委員長	吉岡博和
委員	窪田泰法
委員	山野下聡子

厚真町教育委員会

外部評価委員会点検評価

令和 7 年度執行事務事業分

厚真町教育委員会

令和7年度分 厚真町教育委員会外部評価事務事業一覧表〈学校教育グループ〉

事業番号	事務・事業名	備考
643	英語指導助手配置事業	
833	I C T教育推進事業	
268	学校給食センター管理運営事業	

(予算科目順)

令和7年度 事後事務事業評価シート

事務事業名	英語指導助手配置事業	事業番号			グループ名	
		6	4	3	学校教育グループ	

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成21年度	事業主体	厚真町教育委員会	会計区分	予算科目			
	事業終了年度	—			一般	10	1	1	643
事業の性質	法令に基づかない自主的事業					条例等の有無		無	
根拠法令・例規計画等	厚真町教育振興基本計画								
教育振興基本計画上の位置付け	基本目標	自立して社会で生きていく基礎を育み、新しい時代を担える子どもの育成							
	基本方向	英語を活用しグローバル社会に生きる子どもの育成							
	基本方針	国際社会に絆を広げるコミュニケーション能力の育成							
	—								

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	外国語青年招致事業（JETプログラム）による英語指導助手（ALT）1名に加えて、本事業による平成21年度から民間業者に派遣委託し、さらに1名のALTを配置し2名体制の確保を図る。学習指導内容の充実と労務管理の強化を図っている。本町では他の市町村では見られない小学校1、2年生にも外国語の授業を実施し、さらに小学校入学前の子育て支援センター、こども園から高校、大人の英会話教室までの外国語指導の充実を図っている。
事業の内容（手段・方法等）	民間業者への業務委託（平成21年5月～）によるALT1名を配置。 委託先：株式会社インタラック
対 象	インタラックALT：全小学校全学年（厚真中央小学校、上厚真小学校）、中学校各週1回（厚真中学校、厚南中学校） ※JET ALT：【0～3歳児・年4回】厚真子育て支援センター、厚南子育て支援センター【4～5歳児・年6回】こども園つみき、宮の森こども園、町内中学校全学年（厚真中学校、厚南中学校）、厚真高校への派遣。町英会話教室講師）
成果目標	英語指導助手（ALT）1名配置 小学校の外国語授業補助（小3～4：35時間、小5～6：70時間）、令和7年度から週1回各中学校の外国語授業補助）コミュニケーション科補助（小1：17時間、小2：18時間、小3～4：35時間、小5～6：15時間）注：時数は年間授業時数

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		R5年度実績 (評価対象前々年度)	R6年度実績 (評価対象前年度)	R7年度実績 (評価対象年度)	R8年度予算 (評価実施年度)	適 用
総事業費		6,136	6,136	6,426	6,426	
事業費	事業費	5,848	5,848	6,138	6,138	
	特定財源	国・道支出金				
		町債				
		その他	5,000	5,000	6,000	ふるさと応援基金繰入金
	一般財源	848	848	138	138	
人件費 (@4,000*時間数)		288	288	288	288	
事業費の主な内訳	委託料	5,848	5,848	6,138	6,138	

② 実績・成果

指 標 名 称			R5年度（実績） （評価対象前々年度）		R6年度（実績） （評価対象前年度）		R7年度（実績） （評価対象年度）		R8年度 （評価実施年度）	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主 な 活 動 指 標	英語指導助手（ALT）配置人数	目 標	1	人	1	人	1	人	1	人
		実 績	1	人	1	人	1	人	—	人
		達成度	100	%	100	%	100	%	—	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する ALTの年間の配置日数及び区分ごとの活動回数（回） ※令和7年度～中学校に週2回配置		年203日 ・小学校 225回 ・中学校 4回 ・その他 8回		年196日 ・小学校 236回 ・中学校 19回 ・その他 6回		年203日 ・小学校 210回 ・中学校 85回 ・その他 6回		年195日 ・小学校 219回 ・中学校 87回 ・その他 0回	
主 な 成 果 指 標	英検ESG（小学校6年生） 英検5級：ESGスコア419点 以上の受験人数に占める割合 （英検5級は中学校1年修了レ ベル）	目 標	50	%	50	%	50	%	50	%
		実 績	47	%	58	%	67	%	—	%
		達成度	93	%	116	%	133	%	—	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する 対象児童数（学級数）・生徒数（学級数） ESGスコア419点以上人数（人／受験人数）		対象人数 （クラス数） 小212人（12） 中124人（6） ESGスコア （419点以上） 14人/30人		小219人（12） 中115人（6） 22人/38人		小233人（12） 中122人（6） 28人/42人		小215人（12） 中110人（6） 目標22人/40人	

4 事業の評価（Check）

評価項目	評価の視点	評価結果	説 明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	グローバル社会に対応可能な子どもたちのコミュニケーション能力を高めることは急務であり、義務教育9年間で一貫した英語教育カリキュラムが確立されつつある。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	英語活用能力・コミュニケーション能力の高い児童生徒が育成されてきている。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	B	小学校授業を中心に中学校授業も担当するよう時間割による配置計画を立てること最大限、配置の効率化を図っている。質の高い人材の確保と事業経費の両面からALT人材確保のあり方について改善の余地を模索している。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
理由	小1～中3までの町独自のカリキュラムを編成し、活用性の高い英語能力・コミュニケーション能力の育成が図られており、APRや様々なテスト等でも実証され評価されつつある。また、グローバル社会に対応した人材・コミュニケーション能力の高い人材育成という時代のニーズに対応した事業である。				
課題および改善提案	平成21年度より、ALT2名体制で町内の子育て支援センターから高校、町民英会話教室までの英語教育に対応してきた。この綿密な活動を引き続き継続していくとともに、より実践的なコミュニケーション活動の機会を提供し、今まで培ってきた能力をさらに向上させる必要がある。また、時代と共に変化する英語力のニーズに応えるために、指導力を改善し質の高い支援を提供する必要がある。				

※予算・サービスは「継続（拡大・現状維持・縮小）」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
意見	事業の取組により、英語とふれあう力など子ども達の能力は高いと評価する。 今後は、町の教育で得たものを活かせる方策等の模索のほか、この取組を町内外の方々に知ってもらい、町全体で実感できるよう周知・工夫を行っていただきたい。				

令和7年度 事後事務事業評価シート

事務事業名	ICT教育推進事業	事業番号			グループ名	
		8	3	3	学校教育グループ	

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成28年度	事業主体	会計区分	予算科目			
	事業終了年度		厚真町教育委員会	一般	10	1	1	833
事業の性質	法令に基づかない自主的事業				条例等の有無			無
根拠法令・例規 計画等								
教育振興基本計画 上の位置付け	基本目標	自立して社会で生きていく基礎を育み、新しい時代を担える子どもの育成						
	基本方向	質の高い教育を支える教育環境の確保						
	基本方針	学校ICTの活用による新たな学びの推進						
	－							

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	学習環境の個別最適化や個に応じた指導を効果的に高めるICT機器を活用した教育の推進を図る。
事業の内容 (手段・方法等)	・1人1台端末の更新 ・ICT機器を効果的に教育活動に活用するために必要な教員研修の実施 ・1人1台端末の活用
対 象	厚真中央小学校、上厚真小学校、厚真中学校、厚南中学校
成果目標	ICT機器の活用によって個別最適化された学習環境や効果的な教育活動が、全ての町立学校において日常的に展開される。

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		R5年度実績 (評価対象前々年度)	R6年度実績 (評価対象前年度)	R7年度実績 (評価対象年度)	R8年度予算 (評価実施年度)	適 用
総事業費		2,028	6,144	31,579	8,418	
事業費の内訳	事業費	1,788	5,904	31,219	8,178	
	特定財源					
	国・道支出金			13,713		
	町債					
	その他			17,000	8,000	
	一般財源	1,788	5,904	506	178	
人件費 (@4,000*時間数)		240	240	360	240	
事業費の主な内訳	役務費	0	0	0	776	1人1台端末処分費
	委託料	0	4,114	2,574	3,531	ICT支援・保守
	使用料及び賃借料	2,028	2,028	2,935	3,362	電子ドリル、フィルタリング
	備品購入費	0	0	26,070	720	1人1台端末、公用スマホ
	その他	0	2	0	29	

② 実績・成果

指 標 名 称			R5年度（実績） （評価対象前々年度）		R6年度（実績） （評価対象前年度）		R7年度（実績） （評価対象年度）		R8年度 （評価実施年度）	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主 な 活 動 指 標	I C T支援員による研修の実施	目 標	0	回	1	回	1	回	1	回
		実 績	0	回	1	回	1	回	—	回
		達成度	0	%	100	%	100	%	—	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する I C T機器整備		1人1台端末 4校430台		1人1台端末 4校430台		1人1台端末 更新 4校474台		1人1台端末 4校474台 公用スマホ 4校15台	
主 な 成 果 指 標	I C Tを活用した授業等の取 組み	目 標	4	校	4	校	4	校	4	校
		実 績	4	校	4	校	4	校	—	校
		達成度	100	%	100	%	100	%	—	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する I C Tソフトウェア整備		電子ドリル4校 デジタル教科書 4校その他（総 合的学習、オン ラインリモート 等活用）		電子ドリル4校 デジタル教科書 4校その他（総 合的学習、オン ラインリモート 等活用）		電子ドリル4校 デジタル教科書 4校その他（総 合的学習、オン ラインリモート 等活用）		電子ドリル4校 デジタル教科書4校 健康観察アプリ シャボテンログ 4校その他（総合的学 習、オンラインリモ ート等活用）AI導入検討	

4 事業の評価（Check）

評価項目	評価の視点	評価結果	説 明
妥当性	実施主体・目的・対象・手 段等は公平かつ妥当か？	A	学習環境の個別最適化は国のGIGAスクール構想にも合致しており、学 校で展開される本事業の目的は極めて妥当である。
有効性	期待された成果が得られた か？	A	令和7年度に端末の全台更新を実施し、最新の学習環境を確保した。ま た、更新の際にフィルタリングの設定を行い、安全な通信環境と利活用 のバランスが整ったことで、授業内でのICT活用がより日常化している。
効率性	コスト面からみた費用対効 果は適正か？	B	国の補助金を活用し、計画的な端末更新および運用経費の精査により、 限られた予算内で効率的なICT環境を維持できているが、5年毎の端末 更新に対する国の補助率が限られており町負担を要している。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
理由	各学校ではデジタル教科書や電子ドリル、調べ学習などに端末が活用されている。令和7年度に完了 した端末の更新により、ハードウェア基盤は整った。今後は単なる「機器の利用」から、フィルタリ ング等のセキュリティを担保した上での「主体的な活用」へシフトし、教育効果の最大化を図るため、現 状の支援体制を継続する。				
課題および 改善提案	フィルタリングの導入により安全性が向上したが、その学びに必要なサイトの閲覧に制限がかかって いる可能性もある。実際の授業現場での活用状況をモニタリングし、教育活動に支障のない範囲で、学 校に応じた最適なフィルタリング設定の微調整を継続して行う。また、教育現場のICT人材育成は、育 成期間と教員配置のあり方など国や道において方向性を強く示されるべき課題を含んでいるが、引き続 き学校現場の教職員に対する効果的な研修やI C T活用を図る環境づくりに取り組んでいく。				

※予算・サービスは「継続（拡大・現状維持・縮小）」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
意見	I C Tの推進は、子どもたちの今後において重要なことであり、現状で理解や活用等のレ ベルも高いと評価する。 ただし、保護者等に対しても周知方法や工夫を行い、理解を高めることも必要であると思 われる。町として、一定のルールを設ける必要性など、他機関も含めて様々な情報を集めて 方向性を見定めていただきたい。				

令和7年度 事後事務事業評価シート

事務事業名	学校給食センター管理運営事業	事業番号	グループ名
		268	学校給食センター

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成 1 2 年度	事業主体	会計区分	予算科目			
	事業終了年度		厚真町教育委員会	一般	10	5	3	268
事業の性質	法令に基づく選択的事業				条例等の有無			有
根拠法令・例規 計画等	・地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ・学校給食法 ・厚真町学校給食センター条例							
教育振興基本計画 上の位置付け	基本目標	自立して社会で生きていく基礎を育み、新しい時代を担える子どもの育成						
	基本方向	健やかな体を育む子どもの育成						
	基本方針	学校給食の充実						
	—							

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	地元食材の活用やバランスの取れた栄養豊かな安全・安心な食事を児童・生徒に提供するとともに、学校給食が「生きた教材」となり、子どもの望ましい食生活の形成や食に関する理解を促し、豊かな心と健康な体を育む。
事業の内容 (手段・方法等)	町直営の学校給食センター体制のもと、町内の小中学校4校、認定こども園2園および高等学校へ安心・安全な給食を提供するとともに、食物アレルギー対応の徹底や年間を通じた食育授業および給食指導を実施し、児童生徒の望ましい食習慣の形成と食への関心の向上を図っている。
対 象	園児75人・小学生233人・中学生122人・高校生73人・教職員等113人 計616人
成果目標	安心で安全な学校給食の提供と、児童生徒の望ましい食習慣の形成

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		R5年度実績 (評価対象前々年度)	R6年度実績 (評価対象前年度)	R7年度実績 (評価対象年度)	R8年度予算 (評価実施年度)	適 用
総事業費		101,704	109,817	123,539	126,546	
事業費	事業費	81,464	89,577	103,299	106,306	
	特定財源					
	国・道支出金			7,007	12,354	
	町債					
	その他	33,450	33,719	33,935	22,606	
一般財源		48,014	55,858	62,357	71,346	
人件費 (@4,000*時間数)		20,240	20,240	20,240	20,240	事務事業時間配分計算表(別紙)により算定
事業費の 主な内訳	給与等	25,452	33,300	40,475	43,267	会計年度任用職員の給与、共済費等
	賄材料費	38,053	38,356	42,778	43,499	
	光熱水費	7,476	7,600	9,179	8,497	
	委託料	4,375	4,805	4,573	4,740	
	その他	6,108	5,516	6,294	6,303	修繕費、備品購入費等

② 実績・成果

指 標 名 称			R5年度（実績） （評価対象前々年度）		R6年度（実績） （評価対象前年度）		R7年度（実績） （評価対象年度）		R8年度 （評価実施年度）	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標	児童・生徒等の給食喫食数	目 標	646	人	644	人	616	人	597	人
		実 績	646	人	643	人	615	人	—	人
		達成度	100.0	%	99.8	%	99.8	%	—	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する									
主な成果指標	学校給食における厚真産食材 （野菜類）の使用状況 ※重量ベース	目 標	40	%	40	%	40	%	40	%
		実 績	26.4	%	30.4	%	30.0	%	—	%
		達成度	66.0	%	76.0	%	75.0	%	—	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する									
	参考：全食材（米、肉、野菜類）		55.5 %		56.0 %		56.5 %		56.5 %	

4 事業の評価（Check）

評価項目	評価の視点	評価結果	説 明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	認定こども園から高等学校までの児童生徒へ安心・安全な給食を提供することは、成長期における健康保持および食育の推進において行政が担うべき不可欠な取組である。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	地場産物の活用は、食育の推進と児童生徒の食への関心向上に寄与している。今後も活用を拡大することで、児童生徒の健康的な食生活を定着させるとともに、食を通じて地域への愛着心を育む。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	A	安定的な運営のもと、昨今の物価高騰に対し、町が給食費として園児・児童生徒分へ約700万円を補填し保護者負担を軽減しており、給食の質を維持する観点から費用対効果は適正である。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
理由	平成12年の給食開始以来、安心・安全な給食提供と食物アレルギー対応の強化に努めてきた。今後も安定した運営体制を維持しつつ、食育指導の充実や地場産物の活用を通じ、児童生徒の健康維持と食への関心向上を一層推進する。				
課題および改善提案	令和8年度からの小学生給食費無償化に伴う、給食の質の維持と事務体制の確立が課題である。今後は制度の着実な運用と周知を図りつつ、情勢変化に柔軟に対応する。あわせて地産地消を推進し、食育の一層の充実を図る。				

※予算・サービスは「継続（拡大・現状維持・縮小）」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
意見	町の給食は、町内外からも評価が高いと判断する。地元食材の活用は収穫時期もあり、難しい面も理解できるが取組を進め、今後も質を落とさず安定運営に努めていただきたい。 あつまの日の給食は、米が主役であることが最優先であることは理解しているが、新たなメニュー開発など、記憶に残る工夫・検討も継続して行っていただきたい。				

令和7年度分 厚真町教育委員会外部評価事務事業一覧表〈社会教育グループ〉

事業番号	事務・事業名	備考
118	社会教育委員費	
635	生涯学習振興事業	
265	かしわ公園運動施設管理事業	

(予算科目順)

令和7年度 事後事務事業評価シート

事務事業名	社会教育委員費	事業番号	グループ名
		118	社会教育グループ

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	-	事業主体	会計区分	予算科目			
	事業終了年度	-	町	一般	10	4	1	118
事業の性質	法令に基づく選択的事業				条例等の有無			有
根拠法令・例規計画等	・社会教育法 ・厚真町社会教育委員設置条例 ・厚真町社会教育委員の会議に関する規程							
教育振興基本計画上の位置付け	基本目標	生涯にわたり、支え合い・学び合う地域づくりの推進						
	基本方向	社会全体の教育力の向上						
	基本方針	生涯を通じた町な生涯学習活動の推進						
	-							

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	社会教育法及び厚真町社会教育委員設置条例等に基づき、地域のニーズや教育課題を調査・把握し、教育委員会に対して専門的見地から意見・提言を行う。また、学校・家庭・地域を結ぶコーディネーター役として、生涯にわたり学び合う地域づくりを推進する。
事業の内容 (手段・方法等)	(1) 社会教育会議の開催 (2) 教育施設や社会教育現場の視察・点検 (3) 教育振興計画等に関する・意見具申 (4) 町民の意見を教育行政へ反映させるための活動
対 象	厚真町社会教育委員（12名）
成果目標	事務局が実施している社会教育・生涯学習事業等の課題を可視化し、社会教育委員との定期的な対話を通じて、地域住民の意向を施策に反映させる仕組みを構築する。

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		R5年度実績 (評価対象前々年度)	R6年度実績 (評価対象前年度)	R7年度実績 (評価対象年度)	R8年度予算 (評価実施年度)	適 用
総事業費		320	367	430	516	
事業費	事業費	251	298	361	447	
	特定財源					
	国・道支出金					
	町債					
	その他					
一般財源		251	298	361	447	
人件費 (@4,000*時間数)		69	69	69	69	事務事業時間配分計算表により算定
事業費の 主な内訳	報酬	184	200	274	313	
	旅費	15	40	28	62	
	需用費	10	8	5	9	
	負担金	42	50	54	63	

② 実績・成果

指 標 名 称			R5年度（実績） （評価対象前々年度）		R6年度（実績） （評価対象前年度）		R7年度（実績） （評価対象年度）		R8年度 （評価実施年度）	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主 な 活 動 指 標	委員会の開催回数	目 標	3	回	3	回	4	回	4	回
		実 績	2	回	2	回	4	回	—	回
		達成度	66.6	%	66.6	%	100	%	—	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する		社会教育委員会 2回		社会教育委員会 2回		社会教育委員会 2回・あつひや くワークショップ 2回（教育振 興基本計画関連）		社会教育委員会 4回（予定）	
主 な 成 果 指 標	委員の出席率 （出席のべ人数／開催回数×委嘱委員人数）	目 標	24	人	24	人	48	人	48	人
		実 績	18	人	18	人	31	人	—	人
		達成度	75.0	%	75.0	%	64.6	%	—	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する 社会教育委員の特筆する意見						教育振興基本計 画に関するワー クショップでは 20以上の意見			

4 事業の評価（Check）

評価項目	評価の視点	評価結果	説 明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	B	社会教育法に基づく社会教育行政への助言・提言を行う機関として、委員会を計画どおり4回開催し、社会教育に関する協議を実施したことから、事業の必要性・公益性は確保されている。一方で、委員構成や会議の開催方法などについて見直しの必要性が明らかとなり、より効果的な運営に向けた改善が求められる。
有効性	期待された成果が得られたか？	C	委員会の開催回数は目標を達成したものの、委員の出席率は64.6%にとどまり、十分な議論や多様な意見集約には課題が残った。一方で、委員会において今後の組織運営や開催方法の見直しについて一定の方向性を共有することができ、次年度以降の改善につながる成果は得られた。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	C	会議は計画どおり実施したものの、平日昼間開催による参加の難しさや、資料提供・情報共有の方法など運営面で改善すべき課題が見られた。今後は開催日時の見直しや事前資料の配付、デジタルツールの活用などにより、委員の参加しやすき環境を整え、より効率的な委員会運営を図る必要がある。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続 （拡大）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	拡大
理由	委員の活動の現状が会議のみであることから、町民への成果につながる社会教育活動の内容を拡大する必要がある。				
課題および改善提案	今後、社会教育・生涯学習に対する町民の意識の深化、学校・地域との連携、協働等について、宛職ではなく公募等により広い知見を持ち、社会教育に関心と熱意のある委員の確保を進める。また、講師を招いて他市町村の実践・事例を学んだり、事業等の現地視察を実施したい。				

※予算・サービスは「継続（拡大・現状維持・縮小）」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価

予算	継続 （拡大）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	拡大
意見	これまでの課題を踏まえて、今後は活動内容等を精査し充実させてほしい。また、職員による事業の説明だけにとどめず、委員にテーマを提供することにより、具体的な意見を出しやすく、より活発な社会教育委員の会を目指してほしい。				

令和7年度 事後事務事業評価シート

事務事業名	生涯学習振興事業	事業番号	グループ名
		635	社会教育グループ

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	平成30年度	事業主体	会計区分	予算科目			
	事業終了年度		厚真町教育委員会	一般	10	4	1	635
事業の性質	法令に基づく選択的事業				条例等の有無			有
根拠法令・例規計画等	・社会教育法第5条							
教育振興基本計画上の位置付け	基本目標	生涯にわたり、支え合い・学び合う地域づくりの推進						
	基本方向	生涯学習社会づくりの推進						
	基本方針	生涯を通じた町な生涯学習活動の推進						
	—							

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	子どもから高齢者までが一堂に会し、様々な気づきや発見を生み出す生涯学習の場づくりを目指すとともに、町民が主体的に学びを深める新たな生涯学習の場を創造する。また、障がいの有無にかかわらず、生涯にわたって学べる環境整備に向けた各種機関との連携を深める。
事業の内容 (手段・方法等)	(1)多世代の方が参加できる事業等の開催 (厚真未来カレッジ、ディスカバリーカルチャー、英会話教室、各種検定の開催等) (2)町民の主体的な生涯学習活動を支援 (自主企画事業補助金、出前講座の開催等) (3)多様なツールを活用した教育行政の社会教育行政の発信 (note、SNS、チラシ等の活用)
対 象	厚真町民及び厚真町の公共施設利用者
成果目標	生涯学習事業の実施回数及び参加者数 (1)事業実施回数45回(本事業の予算計上及び職員人件費のみで実施する事業) (2)参加者数300人

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		R5年度実績 (評価対象前々年度)	R6年度実績 (評価対象前年度)	R7年度実績 (評価対象年度)	R8年度予算 (評価実施年度)	適 用
総事業費		3,789	5,132	6,007	6,166	
事業費	事業費	339	1,682	2,557	2,716	
	特定財源					
	国・道支出金					
	町債					
	その他		780		900	いきいきふるさと推進事業
一般財源		339	920	2,557	1,816	
人件費 (@4,000*時間数)		3,450	3,450	3,450	3,450	事務事業時間配分計算表により算定
事業費の 主な内訳	報償費	285	60	937	945	
	旅費			82	171	
	需用費	14	15	20	40	
	委託料		1,567	1,498	1,500	
	負担金補助及び交付金	40	40	20	60	

② 実績・成果

指 標 名 称			R5年度（実績） （評価対象前々年度）		R6年度（実績） （評価対象前年度）		R7年度（実績） （評価対象年度）		R8年度 （評価実施年度）	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標	生涯学習事業の実施回数	目 標	45	回	45	回	45	回	45	回
		実 績	67	回	46	回	60	回	—	回
		達成度	148.9	%	102.2	%	133.3	%	—	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する 厚真未来カレッジ、ディスカバリーカルチャー、英会話教室、各種検定の総数									
主な成果指標	生涯学習事業の参加者数 （のべ人数）	目 標	300	人	330	人	360	人	390	人
		実 績	372	人	426	人	509	人	—	人
		達成度	124.0	%	129.1	%	141.4	%	—	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する 厚真未来カレッジ、ディスカバリーカルチャー、英会話教室、各種検定の総数									

4 事業の評価（Check）

評価項目	評価の視点	評価結果	説 明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	A	子どもを対象としてきた事業（各種検定受検等）を多世代が参加できるように取り組んでいる等、年齢・性別等の条件によらずに参加できる生涯学習事業が展開できていることは評価できていると考えている。
有効性	期待された成果が得られたか？	A	目標としていた事業回数及び参加者数であったことから、生涯学習事業を実施した一定の効果はあったと考える。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	B	令和6年度と比較し1回あたりの参加者数は減少しているため、他のイベントと共催やイベントの集約など運営の見直しを図り、職員の休日出勤の減や参加者数の増につなげていく。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
理由	予算規模等は維持しつつも、子どもから大人まで多様な世代が生涯学び続ける環境を支援していく必要を感じていることから、予算を維持しつつ内容を工夫して取り組んでいきたい。				
課題および改善提案	子ども（特に小学生を中心とした）向けの事業が全体的には多いと考えていることから、中学生以上から大人に向けた事業展開を考えていくことが、必要だと考えている。ただし、小学生向けの事業を縮小するのではなく、文化交流施設の運営・活用も見据えて、各種事業の多世代が関われる事業にする等、実施方法の工夫を考えていきたい。				

※予算・サービスは「継続（拡大・現状維持・縮小）」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価

予算	継続 （現状維持）	サービス	継続 （現状維持）	方向性	現状維持
意見	人口減や職員の働き方改革など、時代に見合った事業の統合や効率の良い事業の継続、廃止を考える時に来ている。 新たに建設される文化交流施設を最大限に利用した事業の展開を目指し、参加者の増加に努めていただきたい。				

令和7年度 事後事務事業評価シート

事務事業名	かしわ公園運動施設管理事業	事業番号	グループ名
		265	社会教育グループ

1 基本事項

事業区分	事業開始年度	昭和56年度	事業主体	会計区分	予算科目			
	事業終了年度	－	厚真町教育委員会	一般	10	5	2	265
事業の性質	法令に基づく選択的事業				条例等の有無			有
根拠法令・例規計画等	スポーツ基本法、厚真町スポーツ施設設置条例、厚真町スポーツ施設管理規則 第4次厚真町総合計画							
教育振興基本計画上の位置付け	基本目標	生涯にわたり、支え合い・学び合う地域づくりの推進						
	基本方向	生涯スポーツの推進						
	基本方針	スポーツの推進と健康づくり						
	－							

2 事業概要 (Plan)

事業の目的	町民に日常的に利用してもらうことに加え、野球大会や・各種イベントを開催することで、地域スポーツの振興と町民の健康づくり、関係交流人口の増加に寄与する。
事業の内容 (手段・方法等)	(1)施設概要：両翼90m・センター110m（夜間照明あり） 利用期間：5月1日～10月31日 利用時間：平日・土曜日 8：45～21：00、日曜・祝祭日 8：45～17：00 利用料金：野球場1時間1,020円・ナイター照明30分1,020円 (2)春先メンテナンス（転圧） 毎年4月中に外部委託 (3)野球場草抜き・草刈り、本部席等維持管理作業 (4)利用者の予約日程管理業務 (5)ラインパウダー等の消耗品の補充
対 象	全町民及び町外施設利用者
成果目標	(1)年間利用者3,000人以上 (2)イベント4回以上開催

3 実施結果 (Do)

① 事業費

単位：千円

事業費の推移		R5年度実績 (評価対象前々年度)	R6年度実績 (評価対象前年度)	R7年度実績 (評価対象年度)	R8年度予算 (評価実施年度)	適 用
総事業費		5,313	5,066	5,459	5,665	
事業費	事業費	3,933	3,686	4,079	4,285	
	特定財源					
	国・道支出金					
	町債					
	その他	152 (71)	115 (8)	165 (87)	100	野球場照明灯使用料等 ○ うち野球場照明灯料金
一般財源		3,781	3,571	3,914	4,185	
人件費（@4,000*時間数）		1,380	1,380	1,380	1,380	事務事業時間配分計算表により算定
事業費の 主な内訳	需用費	3,845	3,595	3,956	4,067	野球場整備（転圧） 本部席等電気料
	役務費	82	82	82	9	火災保険料
	委託料	80	84	108	109	電気保安協会点検委託料
	使用料及び賃借料	0	0	6	0	重機賃借料（害虫駆除）

② 実績・成果

指 標 名 称			R5年度（実績） （評価対象前々年度）		R6年度（実績） （評価対象前年度）		R7年度（実績） （評価対象年度）		R8年度 （評価実施年度）	
			数値	単位	数値	単位	数値	単位	数値	単位
主な活動指標	年間利用者数 （町民体育祭・三本引き大会等のイベント利用者数含む）	目 標	3,000	人	3,000	人	3,000	人	3,000	人
		実 績	2,298	人	1,744	人	2,457	人	—	人
		達成度	76.6	%	58.1	%	81.9	%	—	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する 大規模災害におけるドクターヘリの発着場や救援部隊の駐車場				酷暑・天候不順により利用者減					
主な成果指標	年間の大会等開催数	目 標	4	回	4	回	4	回	4	回
		実 績	2	回	3	回	3	回	—	回
		達成度	50.0	%	75.0	%	75.0	%	—	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する 定期的利用団体数		町民体育祭・雪上三本引き大会 定期的団体：2団体		町民体育祭・雪上三本引き大会・少年野球大会・定期的団体：1団体		町民体育祭・雪上三本引き大会・少年野球大会・定期的団体：2団体		町民体育祭・雪上三本引き大会・少年野球大会・定期的団体：1団体	

4 事業の評価（Check）

評価項目	評価の視点	評価結果	説 明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か？	B	全ての町民に対し、健康体づくりやスポーツを介した交流の場となっており、町の総合計画に沿った施設利用目的が達成できている。また大規模災害等の緊急時におけるヘリ発着場としての防災機能も兼ね備えている。
有効性	期待された成果が得られたか？	C	公認大会開催や練習利用などで利用者から一定の評価を得ているが、全体的に利用者数及び回数は少ない。野球場の汎用性、多目的利用など活用の工夫が必要な状況にある。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か？	C	維持管理経費において、電気料は冬期間休止中、毎月平均116,435円が発生している。また照明設備にも変圧設備の漏電や電球切れ等が生じており、改修工事を要する。今後の施設管理運用にあたり、利用者への理解を求めつつナイター設備の撤去などサービスの提供について、費用対効果を考慮・検討を要する。

※評価結果は、A：妥当である B：概ね妥当である C：あまり妥当でない D：妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等

予算	継続 （縮小）	サービス	継続 （縮小）	方向性	現状維持
理由	多少の増減はあるものの、野球場の利用者数は概ね変化がない状況にある。施設管理においてナイター設備の解体撤去などの維持管理経費の節減に取り組む必要がある。				
課題および改善提案	夜間の利用者数は少ない傾向にある。野球場ナイター照明設備は電球96灯（12灯×8ボール）のうち不点灯の電球が30カ所あり、水銀灯からLED灯への改修も検討を要する。また12月～4月の冬期6ヵ月間の球場休止期間中も毎月11万6千円程度の基本料金が発生している。 これらの維持管理・安全管理経費と利用者数との費用対効果から、ナイター設備解体撤去の検討を進め、予算・サービスは継続縮小、方向性は、野球場の多目的利用を促進し原状維持としたい。				

※予算・サービスは「継続（拡大・現状維持・縮小）」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択。

6 評価

予算	継続 （縮小）	サービス	継続 （縮小）	方向性	現状維持
意見	既存設備の一部廃止は慎重であるものの、人口減少に伴う利用頻度の低下は理解できる。必要な施設と理解できるが、現状のナイター設備の修繕経費やLED化改修経費など高額な経費が発生するため、費用対効果の側面からナイター設備の撤去も判断しなければならない。防災拠点としてのナイター設備必置条件もないことから、撤去の方向性も理解できるが、様々な運用形態も含めて検討願いたい。 なお、撤去の場合は利用者への事前の説明、理解をいただくことも大切であり、対応願いたい。				